

施策展開の方針を踏まえ、以下の基本的な考え方に基づき、公共交通の利便性向上や利用促進を図ります。

＜施策展開の方針＞

方針3：公共交通の利便性向上

公共交通利用者のニーズに応じ、多様な世代が利用しやすい公共交通の利便性の向上を図る。

方針4：公共交通の利用促進

公共交通の維持・活性化に資するため、過度な自動車利用からの転換など、公共交通の利用促進を図る。

＜基本的な考え方＞

- 出発地から目的地までの一連の移動に着目し、公共交通ネットワークの形成と一体となって、多様なニーズに応じた公共交通の利便性向上を図る。
- 市民や事業所等の公共交通利用者の意識改革や、公共交通の利用を促す環境整備により、自動車から公共交通への転換を図るなど、公共交通利用を促進する。

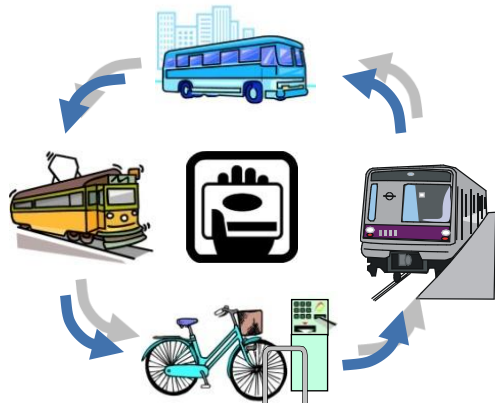
＜具体的な施策例＞

交通系ICカード

改札や機器にかざすだけで料金を支払い

- ・切符購入、現金の支払いの省略
- ・改札のスムーズな通過
- ・乗換の簡素化

○共通ICカード利用イメージ



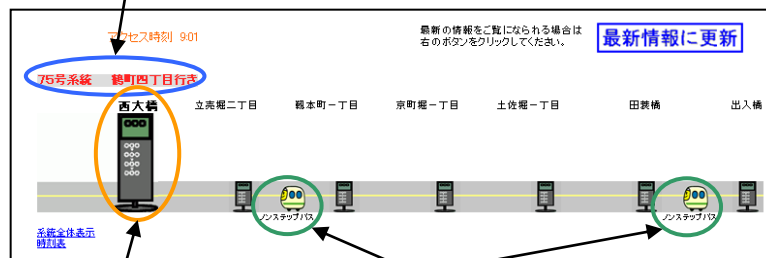
バスロケーションシステム

無線通信やGPSを利用して、バスの運行状況（位置や到着予測時刻）をインターネット（パソコン、携帯電話等）やバス停で案内

- ・自宅等で、バスの現在位置を事前に把握
- ・バス停で、バスが既に通過したかどうかを把握

○パソコン画面での表示例

系統番号と行き先



利用するバス停

バスの現在位置

資料：大阪市交通局ホームページ

＜公共交通への転換イメージ＞

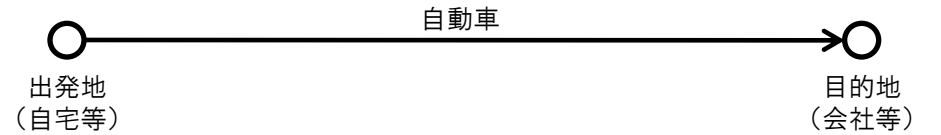
自動車利用の場合

メリット

ドアtoドア（最短距離）、荷物の運搬に便利 など

デメリット

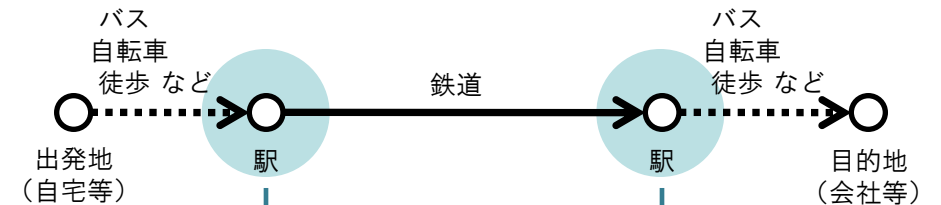
走行空間や駐車場など占有面積が大、環境負荷が大 など



公共交通利用への転換を図るためには

- ・支線バスの充実
- ・コミュニティサイクルとの連携
- ・駅周辺商業施設の駐車場の平日活用
- ・移動円滑化の推進 など

- ・ICカードの導入
- ・ゾーンチケットの導入
- ・運賃均一化
- ・運行情報の提供 など



駅機能の向上
(ICカードの導入や、バス・自転車・自動車と鉄道との乗り継ぎ利便性の向上など)

駅周辺を含めた
利便性の向上